広告

〈あきぎん〉ビジネスポータル

お金が見えれば、これからが見える。

どこでも・かんたん・直感的に
今日から始める、
ビジネスの新しい資金管理。

日々の資金管理をどこでも簡単に

資金繰り管理

- 複数の金融機関口座を「1つの画面」で管理
- 金融機関への業績共有をオンライン化
- ビジネスIB（法人インターネットバンキング）のログイン情報で利用可能

※ビジネスIBのご契約が必要です。

- 金融機関口座等をまとめて管理
- 入出金明細をかんたん保存
- 入出金予定／将来の資金繰りをかんたん・直感的に管理
- 入出金明細を会計ソフトにかんたん連携
- かんたん・直感的に業績を把握
- かんたん資金繰り表作成 金融機関へ共有

帳簿や書類の保存、共有を全て電子化

ファイル保存・共有 ／ 電子帳簿保存法対応 ／ 請求・支払管理 ／ インボイス制度対応

請求書の支払いをクレジットカードで

STEP01 請求をスキャンしアップロード
高性能OCRで自動入力されるので確認するだけ！

STEP02 支払い用のクレジットカードを登録
保存しておけば次回から自動で選択できます。

STEP03 必要事項を入力してカード決済
振り込み希望日などを自由に設定できます。

サービスの詳細お申込みはこちら

くわしくはお近くの本支店へお問い合わせください。

秋田銀行

〈運営会社〉
EMERADA
エメラダ株式会社
電子決済等代行業者登録番号 関東財務局長（電代）第41号

2026年6月1日現在

BIC AKITA 539 2026.06

ビックあきた Vol.539 2026年5月29日発行 編集・発行／公益財団法人 あきた企業活性化センター 〒010-8572 秋田市山王三丁目1番1号
TEL.018-860-5603 FAX.018-863-2390 本誌は、賛助会員への配布となっております。購読を希望される場合は、上記までお申し込みください。

BIC AKITA

元気な企業を応援するビジネスマガジン
Business Information Center

2026 vol.539 06
［ビックあきた］
公益財団法人
あきた企業活性化センター

経営探訪 有限会社 武藤工芸鋳物

伝統を力に変え 秋田に新風を

04 事業承継特集
株式会社 越中谷写真商会
丸石銘木 有限会社
株式会社 THE FARM OWNER
有限会社 書友社
08 生産性向上支援センターの紹介
10 お知らせ

SNSでも県内企業の取組みや
事業をサポートする情報を発信！

Instagram Facebook YouTube

経営探訪
MANAGEMENT REPORT

伝統を力に変え 秋田に新風を

左から現社長の武藤元さんと専務取締役の武藤元貴さん。

木型や粘土での型づくりはすべて手作業で行っている。

クラウドファンディングに挑戦したホットサンドメーカー。

有限会社 武藤工芸鋳物

〒010-0822
秋田市添川字境内川原228-5
TEL 018-832-5329
FAX 018-832-5728
https://muto-casting.com

専務取締役
武藤 元貴（むとう げんき）

HP

鋳物の技で「一点もの」に命を吹き込む

秋田市添川にある有限会社武藤工芸鋳物。創業は明治中期ごろと推定され、専務取締役である武藤元貴さんは６代目となる。鋳物店はかつて『かまっこや』と呼ばれ、親しまれていたという。生活に欠かせない鍋などの補修を行う、多くの人にとって身近な存在だった。

ひと言で鋳物といってもさまざまなものがある。例えば、大きな工場で造られる自動車のエンジンや部品なども鋳物だ。同社では橋やトンネルに掲げる銘板を主に製造しており、その他には銅像といった大きいものから、焼印や学校の卒業記念に配られるような文鎮などの小さいものまで製造している。木や粘土など様々な材料で原型を自社製作し、一点ものを作るのが得意だという同社。機械化が進む現代において、手仕事で多様なオーダーに応える鋳造所は、県内はもとより、全国でも希少だ。

「ただ鋳物を売るのではなく、代々その時代の困りごとに技で応えてきた。それが当社の本質です」。

代々、どんな仕事をしてきたのか。歴史を紐解き、武藤さんは自社の理念を再確認している。

同社では銅合金、アルミニウム、鉄を使う。それらを溶かす黒鉛坩堝。

手づくりした型に溶かした金属を流し込む作業は繊細な作業だ。

外を知り、再認識した「家業の希少価値」

大学進学を機に秋田を離れた武藤さんは、東京のイベント会社に勤めていた。当時は、家業への想いはあったものの、斜陽産業と言われる鋳物業に将来性を感じられないことから「好きなことをやれ」という父の助言もあり、家業を継ぐ意思は薄かったという。しかし、東京で多くの人と対話する中で、秋田で代々続く「手仕事」や「一点もの」という存在が、いかに貴重で価値あるものかを痛感する。「外の環境を知ることで、自分たちの強みがようやく客観的に見えた」と武藤さんは振り返る。

熟練の職人が行っている、金属を流し込むための砂型を作る作業。

2015年に秋田に戻り、家業に入った武藤さん。現在は、父、祖父の代からの熟練職人や母、弟を含む4名の少数精鋭でものづくりに邁進している。現場に入って改めて感じたのは、何もないところから形を生み出し、困りごとに応える鋳物の奥深さだった。かつて遊び場だった工房で、職人たちの背中にかっこよさを感じた幼少期の記憶と、東京で得た視点が重なり、武藤さんの決意は確固たるものとなった。

発展的な事業承継で秋田を盛り上げたい

自身の転機となったのは、秋田県の若者活躍プラットフォームへの参加だった。そこで家業の価値を認められたことが自信となり、オーダーメイドのホットサンドメーカー開発に繋がった。「家業の経営資源を活用し、新しい挑戦で10年後の柱を作る」というベンチャー型事業承継の考え方に触れた武藤さんは、全国の跡継ぎ仲間と切磋琢磨するオンラインコミュニティにも飛び込んだ。その刺激を地元にも還元したいと、2023年には仲間とともに「秋田アトツギ会」を発足させた。

現在、会には18名が所属。跡継ぎ特有の孤独や、ファミリービジネスゆえの共通課題を1人で抱え込まず、次の挑戦へ繋げるための受け皿だ。秋田の独特な企業文化を持つ跡継ぎが新しい挑戦をすれば、秋田はもっと面白くなると武藤さんは確信している。今年度には事業承継を控え、新たな取組も設計中だ。先代たちがその時代のニーズに寄り添ってきたように、武藤さんもまた、地域に必要とされる新たなものづくりの形を模索し続ける。

秋田アトツギ会のメンバーとは、活発な意見交換を行っている。

事業承継
特集
01

地域に根ざした100年の信頼をこれからも
人が介在することの価値を磨き、写真館の新たな役割を模索

専務取締役 **越中谷 優一**

株式会社 越中谷写真商会
〒011-0946
秋田市土崎港中央2丁目2-4
TEL 018-845-1573
FAX 018-846-6968
https://www.e410.co.jp/
HP

変化する時代の潮流を読み 写真館の生存戦略を描く

秋田市土崎で1934年に創業した株式会社越中谷写真商会。北前船の廻船問屋をルーツに持ち、地域に根ざした写真館として90年以上の歴史を誇る。4代目として家業を支える専務の越中谷優一さんは、大学で写真を専攻した後、大手化粧品メーカーの資生堂に勤務。宣伝・デザイン部に所属し、資生堂の広告ビジュアル製作に携わった経歴を持つ。

2017年に帰郷し家業に入った優一さんは、人口減少やAIの進化といった業界を取り巻く厳しい変化を冷静に見つめている。「市場が縮小する中で生き残るには、シェアを広げると共に、選ばれる理由を明確にする必要がある」と語る。2020年頃からは衣装事業にも本格参入し、全国展開している振袖・袴の専門店「一蔵&オンディーヌ」の運営を通じて振袖や袴のレンタル・販売から撮影までをトータルに提案。広告業界や大手企業での経験を活かした客観的な知見を武器に、写真館という既存の枠組みを超えた、多角的な視点による新たな価値提供の形を鋭意模索し続けている。

「人間力」を基軸としたチームで 感動の体験を創出

100年企業という大きな節目を目前に、優一さんが最も力を注いでいるのが「人づくり」だ。今春には新卒2名を含む3名のスタッフを新たに採用。専門性の高い撮影や衣装の技術・知識はもちろん、挨拶や表情、声色といった「人間の基礎部分」の教育にこそ多くの時間をかけている。「AIにはできない、人の心の機微に寄り添うサービスこそが私たちの本質」と考えている優一さん。お客様が満足し、気持ちよく対価を支払える体験を提供するには、技術以上に信頼を得られる豊かな人間力が不可欠だと語る。

また、土崎に寄港するクルーズ船の観光客をターゲットとした「あきた舞妓」とのフォトセッションなど、地域資源を活かした体験型商材の構想も描いている。

伝統ある企業としての信頼に応えつつ、時代の潮流に敏感であり続けること。単なる作業ではない、寄り道さえも楽しめるエンターテインメントとしての写真体験を目指し、優一さんの挑戦は続く。

七五三や成人式などのメモリアル写真のほか、秋田市内の公立高校をはじめとした卒業アルバムの制作を数多く手がけている。

成人式の振袖や、卒業袴など、節目となる行事で利用される和装。常時1,000点を超える商品を取りそろえている。

お客様から信頼されるためには、技術よりも人間力が大切だと語る優一さん。従業員とのミーティングにも熱が入る。

事業承継
特集
02

不燃の技術で木の温もりを守り、国を越えて届けたい
銘木に新たな命を吹き込み、和の空間を次代に繋ぐ

専務取締役 **深井 雄太**

丸石銘木 有限会社
〒016-0171
能代市河戸川字中谷地3-2
TEL 0185-54-1398
FAX 0185-55-0769
https://www.maruishi-meiboku.co.jp/
HP

理系の視点で家業を再定義し 非住宅分野へ舵を切る

1890年に紙漉き業として創業した丸石銘木有限会社。木都・能代で130年以上の歴史を刻み、和室の天井板をはじめとする杉やひのきの部材を作り続けてきた。

専務の深井雄太さんは大学院を卒業後、医薬品メーカー向けの研究設備の設計に携わっていた経歴を持つ。「自分ごととして挑戦できる規模の企業で経験を積みたい」と考え、選択した仕事だった。2021年に秋田へ戻った雄太さんは、父とともに大きな転換期を迎えている。人口減少により一般住宅向け需要が減少する中、神社仏閣や高級ホテル、公共施設などの非住宅分野へと方向を転じたことで、新たな突破口を切り開いた。30年前から培ってきた独自の「不燃加工技術」を武器に、防火基準の厳しい大規模施設でも天然木の風合いを楽しめる製品を提案。伝統ある銘木加工の道に、新たな生存戦略を見出している。長年培ってきた確かな加工技術に、次代を担う柔軟な感性を掛け合わせることで、唯一無二の価値を市場へ示そうとしている。

目利きと加工の川上から川下まで 秋田の銘木を世界へ

雄太さんは現在、営業スタイルの抜本的な改革に奮闘中だ。従来の銘木店や建材店、大手建材商社を通じた販売に加え、ゼネコンや工務店、建築士、デザイナーなど、空間づくりに携わる多様な関係者へ製品の魅力を届けるため、カタログの刷新や情報発信にも力を注いでいる。

特に力を注ぐのは、原木から製材、加工までを一貫して自社で行える「木材の料理法」の多様さだ。この強みを活かし、かつて父が中国に拠点を築いたように、雄太さんも積極的な海外展開を視野に入れている。既に欧米などからも引き合いがあり、秋田の銘木が持つ「和」の価値をグローバルな流通に乗せることが大きな目標だ。

また、神社仏閣やホテルなど非住宅分野で培ってきた不燃技術を一般住宅のキッチン周りにも普及させ、安全で豊かな居住空間を実現したいという父の夢を叶えることにも意欲を燃やす。父から受け継ぐ確かな目利きと柔軟な発想力を武器に、能代から世界へ。地域が誇る伝統を、次代が求める新たな価値へと昇華させるための挑戦は、今まさに始まったばかりだ。

同社では木材を0.2ミリという薄さにスライスする設備を備えており、木の質感を感じられる天井板や床板、壁用部材を製作。

先代から「私ができなかったことを成し遂げて欲しい」と託された社長の範保さん(写真右)は雄太さんにも同じように願っている。

和の素材であり、不燃材という強みを持つ丸石銘木の部材。近年は防火に対する基準も高く、寺社仏閣での需要も増えている。

事業承継特集 03

企業が農場を持つ、新たなビジネスモデル
人事の知見と経営者との縁で、農業の未来を拓く

代表取締役社長　渡部 有未菜

株式会社 THE FARM OWNER
〒105-0014
東京都港区芝二丁目2番12号
浜松町PREX
E-mail info@thefarmowner.jp
https://www.thefarmowner.jp
HP

挑戦の舞台は農業
経験と知見で挑む

男鹿市の農家で生まれ育った渡部有未菜さんは、株式会社BACKSTAGEに所属し、組織の成長を支える人事担当として活躍する傍ら、同社が関わる経営者コミュニティの運営にも深く携わってきた。実家が農家であること、カフェの専門学校に通っていたこと、クラフトビール事業での起業を経験したことなどにより、食や農業への関心は長い間持ち続けていたが、昨今の「令和の米騒動」をきっかけに食糧自給の脆弱さを目の当たりにし、ずっと心にあった想いが「大切な人を守るためのインフラを守りたい」という強い決意へと変わった。

今年1月、同社の社内起業制度を活用して株式会社THE FARM OWNERを設立。コミュニティ運営で培った全国の経営層との強固なネットワークと、人事のプロとしての鋭い視点を武器に、故郷・男鹿での挑戦を開始した。経営者目線でお米の価値を再定義し、地方の農家と都市部の企業を繋ぐ新たな循環を創り出すことで、秋田の農村風景を次代へ残そうとしている。

採用と福利厚生で
農家と企業の縁を

現在提供する「農園オーナー制度」は、人事担当としての経験が色濃く反映されたサービスだ。一口100万円からのオーナー、会員権を通じて、単なるお米の提供に留まらず、実際の農作業体験を提供し、会員となっている経営者同士の交流の場の創出も行う。また、オーナー企業の従業員が農作業体験をしている時の写真や動画は、企業の採用活動時に、宣伝材料となる素材として提供する。当該企業の福利厚生の強化、災害時の従業員とその家族のための食糧確保も想定しているという。人材採用の差別化や社員の定着向上に悩む経営者の課題を、豊かな大地を活用して解決する画期的な仕組みだ。4月にローンチしたばかりだが、年内に契約100社、売上1億円の目標を掲げている。また、農業法人を設立して自らが家業を承継する未来も見据える。人手不足に悩む県内の企業にも、自社の魅力を高めて若い人材を惹きつける新たな選択肢として、この制度を積極的に活用してほしいと願う渡部さん。それは農業を「憧れる職業」へとアップデートし、故郷の未来を切り拓く力強い一歩となっている。

農業の再生と食の安全保障が叶うビジネスモデル。

2026年1月に秋田県庁で開催されたアトツギ甲子園の壮行会で事業内容を説明。

実家である渡部農園で稲刈りを行う渡部さん。

事業承継特集 04

受け継いだ想いを力に、毛筆文化を守る
筆一本から始まる、秋田と全国を繋ぐ新たな文化の形

尾形 翔平

有限会社 書友社
〒010-0954
秋田市山王沼田町11-11
TEL 018-862-3484
FAX 018-862-3485
https://www.shoyusha.com
HP

書道を誰もが気軽に
未経験の視点から業界に挑む

戦後、秋田県内の教員たちが「毛筆文化を守り育てよう」との思いから創刊したのが、月刊競書誌「書友」だ。有限会社書友社は1970年に設立され、書友の発行を企業体として引き継ぎ今に至る。近年は人口減と手書き離れにより、書友の購読者数も下降傾向。創業者の孫にあたる尾形翔平さんは、前職の銀行員や商工会職員時代に県内企業の支援を行うなかで、このままでは先細っていく自身の家業に対しても「何かもっとできることはないか」という思いが大きくなり、2022年から家業に携わるようになった。

書道に深く触れてこなかったという尾形さんだが、その「未経験者の目線」こそが強みとなっている。「流派や経験を問わず、誰もが楽しめる場を作りたい」と、2023年に書友創刊70周年事業として「書友展」を企画した。半紙1枚で簡単に応募ができ、全作品を展示する仕組みが反響を呼び、県内外から1,300点近い作品が集まった。一見、難解で敬遠されがちな書の世界だが、誰もが気軽に書を楽しめる環境を作るべく、尾形さんは奮闘中だ。

異業種との共創で
観光や地域資源に新たな価値を

尾形さんは以前の職場で培った縁を活かし、毛筆と地域資源を掛け合わせた企画を打ち出している。2024年には五城目町の福禄寿酒造と連携して銘柄名を書友展の課題としたタイアップを実施し、最優秀作品は、同銘柄の限定ラベルとなり、受賞者に記念品として進呈した。この企画はSNSや口コミで拡散され、日本酒愛好家の間でも大きな反響を呼んだ。書友展への出品・展示をきっかけに県外から秋田へ足を運ぶ人も増えており、観光振興や「関係人口の創出」という面でも大きな期待を集めている。

また、書友の誌面づくりでは「学び直し」のハードルを下げる工夫も凝らしている。上級者向けの課題だけでなく、初心者でも取り組みやすい平易な課題を新たに設けたことで、ブランクのある大人が再び書道に親しむきっかけを作った。「手書きの機会は減っているが、書で表現したい潜在層は必ずいる」と力強く語る尾形さん。伝統に新風を吹き込む若き跡継ぎの挑戦に、今後も注目していきたい。

初年度は1,300点だったが、翌年は1,800点、昨年は2,000点を超える作品が集まった。展示会場の様子は圧巻だ。

県内外の書道教室経由のほか、個人で購読している方から直接届く課題作品を確認している様子。

福禄寿酒造とのタイアップでは銘柄名「一白水成」を課題に。見事最優秀賞に輝き、一白水成限定ラベルとなった作品。

中小企業庁

中小企業等の生産性向上を徹底的に伴走!
国がよろず支援拠点内で実施する**無料**の支援です。

人手不足の中小企業・小規模事業者の皆さまへ

よろず支援拠点 生産性向上支援センター

こんな悩みをひとりで抱えていませんか?

- 「残業が減らず、人が定着しない‥」
- 「本当は見直したいが、手作業が当たり前になっている‥」
- 「忙しさに追われ、改善に手を付けられない‥」

生産性向上支援センターは、中小企業等の皆さまに寄り添い、「今の現場に合った」次の一歩を一緒に考えます。

ポイント1 生産性向上の「プロ」が支援

生産性向上に関する知識・経験豊富な「プロ」が「今の現場に合った」次の一歩を一緒に考えます。

ポイント2 無料・複数回の現場訪問

「相談にいく時間がない」、そんな場合でも、ご安心ください。サポーターが何度でも、無料で、現場へ伺います。

ポイント3 補助金活用にもメリット

センターの支援を受けることで、省力化投資補助金（一般型）の採択審査において加点が受けられます。（予定）

質問・相談・予約は、

お近くの“よろず支援拠点 生産性向上支援センター”まで、お気軽にお問い合わせください。

お近くの拠点を 調べる

よろず支援拠点一覧 https://yorozu.smrj.go.jp/base/

センターで働きたい方はこちら
サポーター公募情報
https://yorozu.smrj.go.jp/recruit/

※「複数回」の支援は、合計10回程度を想定しています。
※省力化投資補助金（一般型）の採択審査における加点措置については、2026年夏頃以降の公募回から実施予定です。
※本事業は、令和８年度当初予算案に基づくものであり、本事業の実施は当該予算案の可決・成立が前提となっています。今後の国会審議次第では事業内容等が変更される可能性がありますので、予めご了承ください。（2026年3月時点）

秋田県よろず支援拠点
生産性向上支援センター

生産性向上支援センターとは、人手不足や原材料高騰、デジタル化への対応など、
事業者を取り巻くさまざまな経営課題に対応するため、
令和8年4月1日に、よろず支援拠点内に新設された新たな相談窓口です。

統括サポーター
林 隆司

令和8年4月1日、中小企業・小規模事業者の生産性向上を目的にした中小企業庁所管の支援組織”生産性向上支援センター”が発足いたしました。企業・事業者を取り巻く環境は厳しく、人手不足・賃上げ対応・エネルギー高騰・原材料費高騰など経営課題は山積しております。これら経営課題の解決に『生産性向上』は重要なファクターとなります。当センターでは経験豊富な支援サポーターを配し、企業・事業者の皆様が抱える課題を『伴走しながら現場重視』でサポートいたします。『対話と傾聴』を大切にし、皆様のご期待に沿える活動を進めてまいります。

サポーター
佐藤 豪

メカ設計部門で40年の経験を持ち、手書き設計から3D-CADまで幅広く対応。20年以上設計責任者を務め、その中でお客様との折衝や調整も経験しています。月例の実績会議への長年の参加や決算書の知識もあり、設計から管理まで一貫してサポート。フットワークも軽く、お客様先への訪問対応も行います。

サポーター
佐々木 雅樹

製造業で培ってきた経験と実績を活かし、現場で起きていることを現認し、人手不足対応につながる生産性向上支援を進めてまいります。またよろず支援拠点コーディネーターと連携し、チーム一体で事業者様のお悩み、課題解決に経営改善の着眼点で貢献いたします。

サポーター
渡部 信子

中小企業支援の現場で課題に向き合ってきた経験を生かし、机上ではなく実情に即した支援をしたいと考えています。特に実際に現場を見て、業務の流れやムダを把握し、限られた人員でも成果を上げられる体制づくりによって、従業員負担の軽減、利益率改善、定着率向上に寄与致します。

サポーター
小林 了

地元情報システム会社の営業として、秋田県内企業様の基幹業務システム構築〜ＩＴツール利用・デジタル化による業務効率化の支援にたずさわってきた経験を活かし、「生産性向上」に向けて、現場で起きている事実を把握、本質的な課題を見極め、解決するための方策を皆さんと一緒に考えながら、実践的な伴走支援をいたします。

サポーター
大森 麻美

宿泊分野での経験を活かし、生産性向上に特化した支援を行います。
業務効率化や人手不足対策に向けて現場課題を整理し、実行可能な改善策を提案。
課題の明確化から仕組みづくり、実行まで伴走し、収益向上と働きやすい環境づくりを支援します。

サポーター
高橋 範彦

経営者の皆様に寄り添いながら、常に同じ目線で課題解決策を考えることを心がけております。昨今めまぐるしく変化する経営環境への課題に対し、同じ時間・資源で、より多く・より良い成果を出せるよう、現場重視の伴走支援をおこなってまいります。

お問合せ

よろず支援拠点 生産性向上支援センター

秋田県よろず支援拠点
生産性向上支援センター
秋田市山王３丁目1-1　県庁第二庁舎２階

018-860-5609

あきた企業活性化センターからのお知らせ

海外出願補助金

募集中

特許・意匠・商標の海外出願に係る経費の一部を助成します。

募集期間
［第１回］令和８年５月２５日(月)から７月２４日(金)
［第２回］令和８年８月２４日(月)から１０月２３日(金)
※第１回募集分の採択決定後、予算残がある場合のみ実施

助成対象
秋田県内に事業所を有し、自ら出願人となり、外国特許庁へ特許等を出願する中小企業者

助成対象経費
外国特許庁への出願に要する経費、現地代理人や国内代理人、翻訳費用に要する経費等
※詳細は募集要項をご確認の上、ご相談ください。

助成率
助成対象経費の2分の1以内
※助成対象者以外の方との共有に係る特許等である場合、持分比率に応じた経費が対象となります。

1出願あたりの上限額
特許：上限150万円、実用新案・意匠・商標：上限60万円、抜け駆け対策商標：上限30万円
※1企業あたりの助成上限額は300万円
※抜け駆け対策商標とは、第３者による抜け駆け出願(冒認出願)の対策を目的とした商標出願

［お問合せ］知財・デザイン支援課　TEL.018-860-5614　FAX.018-863-2390
▶詳細は当センター HPに掲載しておりますので、ご確認のうえお気軽にご相談ください！

賛助会員広告
ハンサム侍（製造販売所）鹿角市花輪字下タ町88
TEL:0186-22-7370　FAX:0186-22-7376　Mail:handsome-samurai.jp@star.ocn.ne.jp

賛助会員広告
From Tohoku, to the world.
東北の中小企業とともに、日本全国・世界を見据えた販路開拓・営業支援
東京以西の展示会出展をサポートします!
- 展示会に出展したいけど、手が回らない
- 名古屋・大阪・福岡など西日本には出展できていない
- 英語対応ができず、海外バイヤーとの商談機会を逃している
- 販促資料の作成が苦手で、ブースでの営業に不安がある

Luoda. 合同会社Luoda（ルオーダ）
〒531-0072　大阪府大阪市北区豊崎3丁目15-5 TKビル2F
お電話でのお問い合わせ　受付(土日祝除く) 9:00～18:00
090-4714-3682
Webからのお問い合わせはこちら

あきた企業活性化センターからのお知らせ

専門家派遣事業

2026年度

あきた企業活性化センターでは、センター登録の民間専門家を派遣し、課題解決のための診断・助言を実施しています。

派遣対象分野
- 経営全般
- IT・情報化
- 技術・生産
- 食品・醸造
- 法務・労務
- 税務・会計
- 販売マーケティング
- その他

※この事業は企業等の自助努力に対して専門的見地から診断・助言を行うものであり、企業等の実務代行や取引先等の斡旋を行うものではありません。

専門家の謝金を補助
派遣日数は最大延べ２日間で専門家の謝金を全額補助します！

お問合せ
あきた企業活性化センター／総合相談課
〒010-8572 秋田市山王三丁目1-1 TEL:018-860-5610 FAX:018-863-2390 HP:https://www.bic-akita.or.jp
あきた企業活性化センター

あきた企業活性化センターからのお知らせ

賛助会員募集

賛助会員様の無料広告は
随時受付中

あきた企業活性化センターでは、県内の中小企業の新分野進出や経営革新等を支援する事業を行っており、この活動にご賛同いただける賛助会員を募集しています。

年会費1万円
企業・団体・個人等、どなたでもご入会いただけます。
また、有料広告・無料広告の掲載についても随時募集しております。

主な会員特典

1. 当センターが発行する月刊情報誌「ビックあきた」の**無料配布**（12ヶ月分）
   毎月月末に3,000部発行。賛助会員のほか、マスコミ各社、金融機関、商工団体、県内の大学・高校等へ配布しています。
2. 当センターWEBサイトの**リンク集への掲載**
3. 「ビックあきた」への賛助会員広告が**無料**
   毎月2社程度、A４・1/4頁、カラー印刷
4. 有料広告欄の費用が**半額**
5. 企業情報等のリーフレット**折り込み**
   ※要事前相談
6. 当センターHPのバナー広告料が**半額**
   当センターの賛助会員のリンクも掲載

お問合せ／申請先
あきた企業活性化センター 総合企画部　総務広報課
TEL.018-860-5603　FAX.018-863-2390　E-Mail:active@bic-akita.or.jp
WEBサイトはこちら▶